

主な出展リスト

『風変わりな店』

- ◆ ポスター／バレエ・リュス／フランス：パリ・オペラ座／1920年1月25日 (PO-16)
- ◆ ポスター／バレエ・リュス／イギリス：コヴェントガーデン劇場／1920年11月22日 (PO-17)
- ◆ プログラム／バレエ・リュス／イギリス：ロンドン・コリセウム劇場／1924年12月29日 (PR-BR-HP-051)
- ◆ 写真／「カンカン人形」アレクサンドラ・ダニロワ&レオニード・マシーン／1934年頃 (PC-W-003)
- ◆ 写真／「タランテラ」オルガ・モルソヴァ&ローマン・ヤシンスキ／1937年 (PH-C-11-009)
- ◆ 書籍／『風変わりな店』／シリル・ボームント著／イギリス：ロンドン／1919年 (BK-0215-pie)

『三角帽子』

- ◆ プログラム／バレエ・リュス／パブロ・ピカソ画『三角帽子』衣装／フランス：パリ・オペラ座／1919～1920年 (PR-BR-OF-16)
- ◆ 写真／「粉屋の亭主」レオニード・マシーン／1919年頃 (PH-D-170-02)
- ◆ 葉書 (サイン入り)／「粉屋の亭主」レオニード・マシーン／1919年頃 (PC-B-098-02ws)
- ◆ 書籍／『三角帽子』／シリル・ボームント著／イギリス：ロンドン／1919年 (BK-0217-pie)
- ◆ 書籍／『「三角帽子」のためのデザイン』／パブロ・ピカソ著／アメリカ：ニューヨーク：ドーヴァー出版／1978年 (BK-0825-pie)
- ◆ 切り抜き／「代官」スタニスラス・イジコフスキー／ヴェラ・ウイロビ画／限定書籍『スタニスラス・イジコフスキーの芸術』シリル・ボームント著／イギリス：ロンドン／1926年 (CL-061)

主な参考文献・資料

- ◆ 薄井憲二他監修『魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展』カタログ／国立新美術館・TBSテレビ／2014年
- ◆ 芳賀直子『バレエ・リュス～その魅力のすべて～』／国書刊行会／2009年
- ◆ DVD『赤い靴』映画／マイケル・パウエル&エメリック・プレスバガー監督／紀伊國屋書店／2011年
- ◆ DVD『ピカソとダンス (青列車) (三角帽子)』パリ・オペラ座バレエ／ワーナーミュージック・ジャパン／2009年

「兵庫芸術文化センター管弦楽団

第123回 定期演奏会』にて『三角帽子』演奏!

来年2020年4月、兵庫芸術文化センター管弦楽団 (通称:PACオーケストラ) 第123回定期演奏会にて、本展でご紹介した『三角帽子』が演奏されます。指揮:井上道義がお届けするのは、情熱の国スペインの音楽。美しい古都に思いを寄せる名曲『アラソフェス協奏曲』ではギター・ビジェガス、情景が思い浮かぶ『スペインの庭の夜』ではピアノ:ペレスと、2人のスペインの名手をソリストに招く豪華な演出です。心揺さぶる熱い音楽に、ご期待ください!

第123回 定期演奏会

2020年4月17日(金)・18日(土)・19日(日)15:00 開演
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

【 演 目 】 ファリャ『三角帽子』、ロドリゴ『アラソフェス協奏曲』、
ファリャ『スペインの庭の夜』

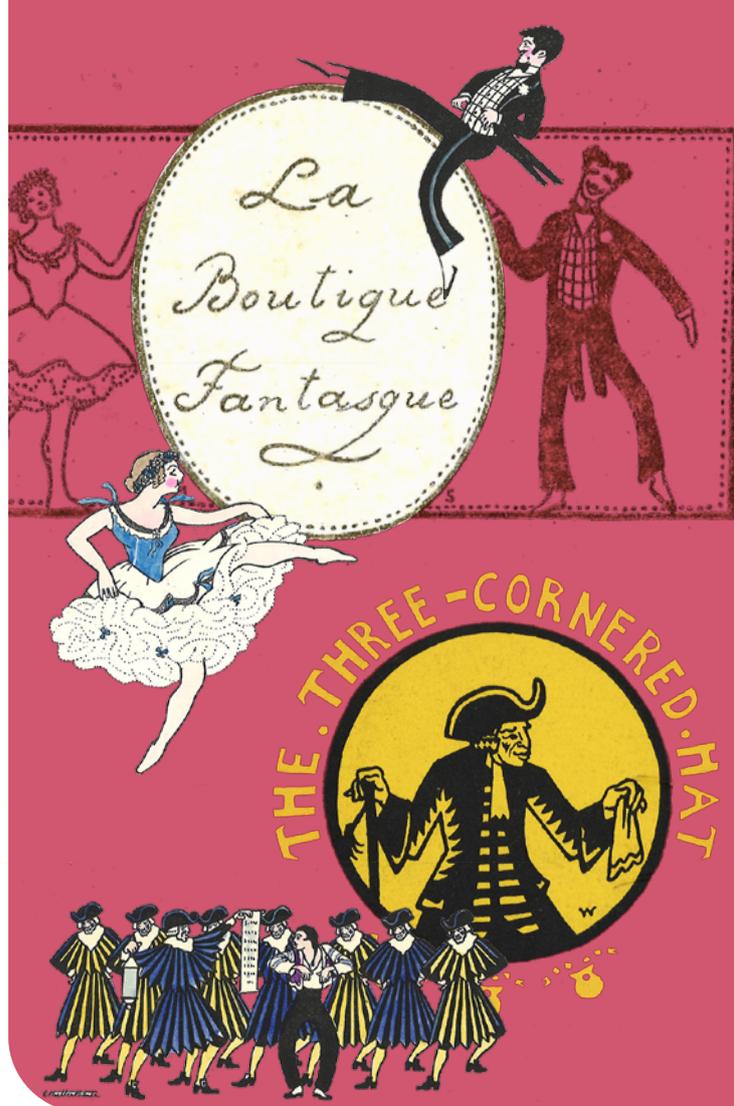
【 指 揮 】 井上道義

【 ギター 】 パブロ・サインス・ビジェガス

【 ピアノ 】 ルイス・フェルナンド・ペレス

【 管弦楽 】 兵庫芸術文化センター管弦楽団

*1月チケット発売予定



Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二 バレエ・コレクション
2019企画展

初演100周年

『風変わりな店』『三角帽子』

～ The 100th Anniversary of
“La Boutique Fantasque” & “The Three-Cornered Hat” ～

2019/10/8 (Tue.) ～ 2019/11/17 (Sun.)

2019年は、バレエ・リュス作品『風変わりな店』と『三角帽子』の初演100周年にあたります。振り付けたのは、20世紀を代表する振付家の一人、レオニード・マシーン。19歳の頃に『夜の太陽』(1915)で振付家デビュー、1917年には画期的な前衛バレエ『パレード』(台本ジャン・コクトー、音楽エリック・サティ、美術・衣装パブロ・ピカソ)で、大きな話題を集めました。その2年後に発表したのが、今回ご紹介する2作品です。イタリアやスペインの異国情緒を取り入れた喜劇的なバレエは、それまでのバレエ観を一新するものでした。観客は声をあげて笑い、大喝采したといえます。本年は彼の生誕123年、没後40年でもあります。当時冠羽23歳という若さに満ちたマシーンの、振付家／ダンサーとしての魅力あふれる世界を、お楽しみください。

Kenji Usui Ballet Collection

The 100th Anniversary of “La Boutique Fantasque” & “The Three-Cornered Hat”

2019/10/8 (Tue.) ～ 2019/11/17 (Sun.)

(休館日はwebでご確認ください)

◎ 企画・監修

関 典子 (せき・のりこ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター
Noriko Seki (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

舞踊家・振付家・舞踊研究家。幼少よりクラシックバレエを学び、18歳でコンテンポラリーダンスに転向。お茶の水女子大学大学院博士後期課程を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授。日本ダンス評論賞・兵庫県芸術奨励賞・神戸市文化奨励賞等受賞。

若林絵美 (わかばやし・えみ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター
Emi Wakabayashi (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

後藤俊星 (ごとう・しゅんせい) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター
Shunsei Goto (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二 バレエ・コレクション 担当

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 tel: 0798-68-0223 (代表) fax: 0798-68-0212

Hyogo Performing Arts Center

レオニード・マシーン (Léonide Massine 1896~1979)

ロシア=アメリカのダンサー、振付家、バレエマスター、教師。バレエ・リュス最大のスターの一人。20世紀において最も影響力があり、最も論議を呼んだ振付家の一人。1912年ボリショイ・バレエ学校を卒業、ボリショイ・バレエ入団。1914年、バレエ・リュス団長のセルゲイ・ディアギレフに見出され、ミハイル・フォーキン振付『ヨゼフ伝説』に主演、ワツラフ・ニジンスキーに代わる花形スターとなる。

1915年『夜の太陽』で振付家デビュー。『上機嫌なご婦人方』『バラード』(1917)、『風変わりな店』『三角帽子』(1919)、『ナイチンゲールの歌』『プルチネラ』『春の祭典』(1920)などの話題作を続々と発表。ディアギレフの死後、バレエ・リュス・ド・モンテカルロの旗揚げに関わった他、数々のバレエ団や自身の一座「バレエ・リュス・ハイライツ」を率いて巡演。映画『赤い靴』(1948)には、振付家・ダンサー・靴屋の役で出演。

マシーンは自作に多く出演し、民族舞踊や演劇的要素の強い役柄を得意とする生粋のキャラクターダンサーとしての魅力を放った。脚の形にコンプレックスがあったそうで、『三角帽子』の粉屋の役のためにピカソがデザインしたスペイン風のズボンが気に入り、他のバレエでも流用した他、稽古には必ずこれを履き、決して他人の前で脚をあわらにできなかったという。



「粉屋の亭主」
レオニード・マシーン



プログラム表紙:パブロ・ピカソによる衣装デザイン

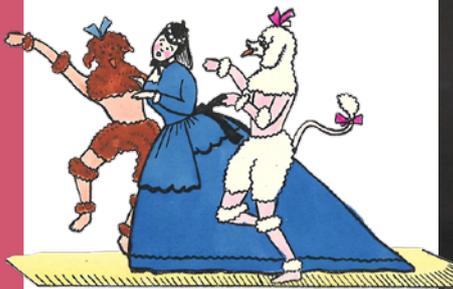


『風変わりな店』 (The Fantastic Toyshop/ La Boutique Fantastique)

- 【 台 本 】セルゲイ・ディアギレフ、レオニード・マシーン、セルゲイ・グリゴリエフ、アンドレ・ドラン (ヨゼフ・バイエルンのバレエ『人形の精』(1888)に基づく)
- 【 音 楽 】ジョアキーン・ロッシニ(オットリーノ・レスピーギ編曲)
- 【 振 付 】レオニード・マシーン
- 【 美術・衣装 】アンドレ・ドラン
- 【 初 演 】1919年6月5日 ロンドン:アルハンブラ劇場
- 【 出 演 】レオニード・マシーン、リディア・ロボコワ、リディア・ソコロワ、エンリコ・チェケッティ他
- 【主な登場人物】お客たち(英国人家族、アメリカ人家族、ロシア人家族)、人形たち(タランテラ、コサック、トランプの王と女王、ブードル犬、カンカン)、店主、店員

舞台は1865年、イタリア・ナボリの玩具店。別々の客に買われて離れ離れになってしまったカンカン人形のカップルを、他の人形たちが力を合わせて救出するというファンタジックなストーリー。ディズニー映画『イ・ストーリー』にも通じる設定で、生き生きとした機械仕掛けの人形、国際色豊かな客(英国・アメリカ・ロシアの家族)、店主や店員たちのドタバタ奮闘劇が楽しい作品。

大戦中のイタリアで構想された作品の一つで、例えばブードル犬の場面は、マシーンが海岸で見たじゃれ合う2匹のフォックステリアから想を得たという。主役のカンカン・ダンサーは、振付家マシーン自身が白塗りで演じ、評判となった。映画『赤い靴』でも、そのワンシーンを観ることができる。



「ブードル犬」の衣装



「タランテラ」

『三角帽子』 (The Three-Cornered Hat/ Le Tricorne)

- 【 台 本 】グレゴリオ・マルティネス・シエラ (ペドロ・アントニオ・デ・アラルコンの小説『三角帽子』(1874)に基づく)
- 【 音 楽 】マヌエル・デ・ファリャ
- 【 振 付 】レオニード・マシーン
- 【 美術・衣装 】パブロ・ピカソ
- 【 初 演 】1919年7月22日 ロンドン:アルハンブラ劇場
- 【 出 演 】レオニード・マシーン、タマラ・カルザヴィナ、スタニスラス・イジコフスキー他
- 【主な登場人物】粉屋の夫妻、代官、村人たち、警官たち

18世紀のスペインを舞台にした世俗的な喜劇バレエ。通りすがりに粉屋の女房を見初めた代官が、横恋慕を押し通そうとした挙句、しっかり者の女房と粉屋の亭主に巧みにかわされて大恥をかくという、反権力、勧善懲悪の痛快劇。題名の「三角帽子」は、権力の象徴として代官がかぶっている帽子のこと。

マシーンはスペイン北部の民俗舞踊を多く採り入れ、民族色豊かな陽気で賑やかなバレエに仕上げた。粉屋の亭主役はマシーンの当たり役の一つで、特に「ファルッカ」のソロでは上演の度に盛大な拍手を浴び、上演がしばし中断してしまうほどだったという。ピカソによるスペイン風の衣装は当時の流行の先駆けにもなった。20世紀における振付家・作曲家・舞台美術家の最も成功した例の一つとみなされている。